

学校法人小寺学園
令和5年度 事業計画企画書

報告書作成日 2023年4月1日

基礎情報内容	実施園情報
法人名	学校法人小寺学園
理事長名	秦賢志
園名	幼保連携型認定こども園はまようちえん / 企業主導型保育事業はまようちえんナーサリールーム
園長名	小寺由起
担当者名	役職名: 教頭 氏名: 樋口詩菜
住所	〒661-0967 兵庫県尼崎市浜2-2-13
電話番号	06-6499-4919
FAX 番号	06-6499-4931
メールアドレス	infoa@hama.ed.jp
園児数	211人
学級数と人数	認定こども園ようちえん7学級 168人 ナーサリー 31人 / ナーサリールーム 12人
教職員数	59人

本園の教育目標	わたしになる。ぼくになる。 つよく。かしこく。うつくしく。おもしろく。
今年度重点目標	① THE 広報部（はまよういいところアピール）～season2～ ②地域コミュニティを育むサードプレイス新設「はまようつながるぱーく」第1期 ③保育実践の研究発表による質向上 ④キンダーカウンセラー制度を生かした特別支援教育の充実

今年度の重点目標	① THE 広報部（はまよういいところアピール）～ season2 ～
テーマ	HAMAYOU Self Branding

達成目標 GOAL 達成したい目標 評価目標

自園のいいところをアピールする量を増やした前年度に続き、今年度は発信の質を向上させることにより、外部の人がはまようちえんのいいところを発見し、見たい（SNS 閲覧数）、知りたい（SNS 検索数）、行ってみたい（園見学者数）人が増えることを目指す。

企画意図 CONCEPT 目的 目標 コンセプト めざす方向

【season1(前年度)の実績と課題】
プロジェクトメンバーが自らの強みを活かし、初年度から新しい取り組みに積極的にチャレンジすることができた。
① YouTube、Instagram の開設、ドキュメンテーション用掲示板など、広報コンテンツをアップデート。Instagram のフォロワー数が開設半年で 300 名超えとなった。
② 入園募集説明会、リクルート、公開保育など、目的に応じた動画作成。
③ OPENHAMAYOU、養成校への PR など、積極的にリクルート活動をした結果、新卒者 3 名、転職者 1 名の保育教諭採用に繋がった。
プロジェクトメンバーが自分の得意なツールの活用を通して、はまよの魅力発信を開始したものの、実際の園見学者の増加には繋がっていないため、前年度やってみたことを振り返り、そこでの気づきを活かしながら、今年度は質の向上に努め、園見学者数の増加を意識していきたい。

【目的】
① はまようファンづくり！
② 広報部員の、はまようスタッフとしての誇り（Profaitth）が深まる。

【目標】
① はまよのいいところ発見！！見たい（閲覧数）知りたい（検索数）行ってみたい（園見学者数）を増やす。
② 広報部員がはまよのいいところを自分の得意なツールで語れる。

【コンセプト】
good sPiral , big Relation

実施計画 PLAN いつ どこで 誰が どのように実施するのか

【プロジェクトメンバー】
リーダー：樋口詩菜
サブリーダー：岡、樋口知華
部員：大野、原田、松尾、渡部、長尾、荒嘉（新）、長谷川（新）、堀江（新）、長浦（新）

【どのように】
リクルート、動画編集、SNS、ホームページ、園内広報の 5 チームにわかれて学期に 1 回以上のミーティングを実施。
はまよう保育の PR 方法の質向上に向けてアップデートを行う。

今年度の重点目標	②地域コミュニティを育むサードプレイス新設
テーマ	地域とつながる公園「はまようつながるぱーく」第1期

達成目標 GOAL 達成したい目標 評価目標
<p>はまようをめぐるまちの人々がおたがいさま系コミュニティを育む場となり、まちに住む人たちに活気が生まれる。 第1期として芝生、砂場、小川、植樹植栽、エントランスを造成する。 第2期（令和6年度）は、茶室と茶庭を造設する。</p>
企画意図 CONCEPT 目的 目標 コンセプト めざす方向
<p>【WHY】 はまよりのポリシーのひとつ「おたがいさま系コミュニティ」づくり、「生涯共育の場づくり」の具現化として、奥庭を地域にひらく公園として開設する。地域の親子や住人が安心安全にゆったり過ごし、まちのなかでゆるやかにつながり育まれていくおたがいさま系コミュニティの場として存在し、利用者がこのまちで子育てすることに対する喜びと豊かさを実感することを目的とする。</p> <p>【HOW】 芝生広場、手押しポンプ、砂場、小川を第1期で造成し、来年度第2期には茶室「住通庵」と茶庭を建立する。公園は、毎日朝から夕方まで開園。管理人は常駐しない。利用者はルールに則って自由に利用する。在園児は「つながるぱーく隊」を編成し、担当保育者とともに公園の整備管理をする。その他保育の場としてさまざまに活用していく。</p>
実施計画 PLAN いつ どこで 誰が どのように実施するのか
<p>【プロジェクトメンバー】 プロジェクト総指揮：秦 企画チーム：秦（リーダー）、由起、樋口詩菜 建築チーム：寺地（設計監理）、岩田建設（建築施工） 管理チーム：平田（リーダー）、樋口知華、阪神園芸、大和肥料 保育チーム：大野（リーダー）、岡（預かり保育）、二木（3.4.5歳児）、原田（0.1.2歳児）、市谷（子育てひろば）</p> <p>【実施内容】 企画・管理チームは、第1期として芝生、砂場、小川、植樹植栽、エントランスを造成する。 保育チームは保育のなかでの活用方法を創造する。</p>

今年度の重点目標	③保育実践の研究発表による質向上
テーマ	自園の保育についてロジカルに語ろう！

達成目標 GOAL 達成したい目標 評価目標
<p>外部に向け、自園の保育について、外部の方に伝わりやすい言葉で（ロジカルに）語ることを通して、スタッフの専門性を高め、保育の質向上につなげる。</p>
企画意図 CONCEPT 目的 目標 コンセプト めざす方向
<p>【背景】 令和4年度より自園主催の「異年齢保育研究公開保育」をスタート。また、夏には実践学会、冬には保育と仲間づくりネット主催の研修会でポスター発表を行った。その中で、保育の価値観が異なる他園の先生方に自園の保育についての課題を正確に伝え、同じ視点から保育の課題について語り合うことの難しさを実感した。</p> <p>【目的】 外部に向け、自園の保育について、外部の方に伝わりやすい言葉で（ロジカルに）語ることを通して保育の質向上につなげる。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジカルに自園の保育を語るスキルの向上。 ・自園の良さや課題を俯瞰的に捉え、再確認する。
実施計画 PLAN いつ どこで 誰が どのように実施するのか
<p>2023年度ソニー幼児教育支援プログラム 保育実践論文 「科学する心を育てる」～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～</p> <p>【いつ】2023年8月</p> <p>【誰が】樋口詩菜、岡、小川</p> <p>【発表形式】論文</p> <p>【内容】令和4年度 ファンタジープロジェクト</p> <p>全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催 第14回 幼児教育実践学会</p> <p>【いつ】2023年8月18日・19日</p> <p>【誰が】大野、忠津、松尾</p> <p>【発表形式】ポスター</p> <p>【内容】自己評価システム「学びシュラン」</p> <p>自園主催 第1回 異年齢保育研究公開保育</p> <p>【いつ】2024年1月12日</p> <p>【誰が】全スタッフ</p> <p>【発表形式】公開保育</p> <p>【内容】園内研修・ミーティング</p>

今年度の重点目標	④キンダーカウンセラー制度（私立幼稚園子育て支援カウンセラー事業）を生かした特別支援教育の充実
テーマ	一人ひとりに合わせた個別の支援（関わり）について考えを深める。

達成目標 GOAL 達成したい目標 評価目標

現場の保育者が悩んでいる子どもへの関わりについて臨床心理士から具体的なアドバイスをいただき、解決への糸口を見出す。

企画意図 CONCEPT 目的 目標 コンセプト めざす方向

【背景】

園の保育者だけで話し合っても子どもの理解が難しいケースや、特別なサポートが必要な子どもについて、専門的な（臨床心理士目線での）アドバイスから、その子に合った関わりや、保護者支援を深めたい。

【目的】

臨床心理士の視点で、個々に応じた関わりについてアドバイスをいただき、一人ひとりに合わせた個別の支援（関わり）について考えを深める。

実施計画 PLAN いつ どこで 誰が どのように実施するのか

【いつ】 月1回（年12回） 9:00-14:00

【誰が】 臨床心理士、由起、大野（担当者）、対象児の担任

【どのように】 臨床心理士による、保育観察と面談を通して、園児への関わりについて具体的なアドバイスをいただく。